

子ども食堂 広げよう

全国ツアー 運営者ら課題探る



子ども食堂の現状や課題について話し合う運営スタッフら—徳島市の四国大

地域の子どもたちにも食堂の輪！全国ツアーや安価で食事を振る舞う「子ども食堂」に理解を深めるシンポジウム「広げよう、子ども食堂の運営スタ

市（主催）が16日、徳島の四国大であった。子ども食堂の運営スタッフや関心を持つ市民ら250人が参加し、現状や課題を探った。貧困問題に取り組む社会活動家で、法政大教授の湯浅誠氏が基調講演し、この2年間で全国の子ども食堂が約2千カ所増えたことを報告。要因として「子どもの貧困対策という側面よりも、高齢者ら地域住民の交流拠点としての役割が大きくなっている」と強調した。

続いて、県内の子ども食堂運営者ら6人がパネル討論。息の長い運営への課題として、場所や資金、食材、ボランティアスタッフの確保が挙げられた。効率的な広報活動については、食堂同士の連携が不可欠だと確認。徳島市のボランティア団体「こどもの居場所づくりわいわい」の木村豊さんは「県内でいつ、どこで開いているかを示すマップを作ってはどうか」と提案した。

公民館や児童館での開催、学校便りを活用した情報発信など、行政・教育機関に子ども食堂への支援や理解を求める声も出た。

（阿部研一）